

児童生徒を どのように育てるか

中村 文武議員

多様性を尊重し主体的に学ぶ人を育てる

教育長



▲学習指導要領「生きる力 学びのその先へ」

問 本市の児童生徒をどのように育てるのか。教育長の考えは。

答 「人と人との絆を大切に心豊かでたくましくしなやかな人を育む」あるいは「多様性を尊重し、主体的に学ぶ人を育てる」ことに邁進していく。

個性を尊重した学習については、個性を活かした学びが自分の得意分野を見つけ、伸ばすきっかけになる。これは、進路や職業の選択にも影響すると思う。

基礎学力の向上については、ICT機器を効果的に活用し、基礎学力の定着を図っている。全小・中学校に学校訪問を行い、学習指導要領のねらいに基づいた学校経営、学習指導が行われるように助言に努めていく。

基金運用の責任は

問 基金運用の責任は。

答 元本が保証された国債等である。債券の保有割合増加は経営判断であり一定の合理性がある。債券購入は副市長の決裁を得ており、市長が恣意的に運用先を指示していない。適切に運用をしており、法的な責任が生じないと考え。

問 市を株式会社で考えれば、売上と経費削減を進めなければならない。副市長の想いや決意は。

答 予算規模は人件費や社会保障関係経費や特別会計への繰出金を中心に増加傾向である。そのため多額の財政調整基金を取り崩している現状だ。歳入歳出ともに積極的に見直しを図り、財政基盤を再構築していくこと

とが不可欠だ。

歳入面は、国や県の補助金などの特定財源を最大限確保するほか、自主財源の確保、ネーミングライツ制度の横展開や市有財産の売却、貸付に取り組む。また、使用料、手数料の見直しにも取り組む必要がある。長期的には、駅周辺のまちづくり等による定住人口の確保の取り組みを進める。

問 佐織庁舎跡地、福原分校の利活用をどのように進めていくのか。

答 施設の所管課を中心に利活用可能な用途などをゼロベースで振り返り、どのような道が開けるかは努力していく。

その他の質問

●総合計画の策定の仕方及びその内容は